

N

P

O

論

楽

『NPO論楽』と題したこのコーナーでは、とかく難しくなりがちなNPOの論議を、①やさしく解きほぐし②「論を楽しむ」ことを試みたいと思います。

第1回目の今回は専修大学の杉田博先生に、①「NPOとは？—私たちの願い—」という文をご寄稿いただき、その内容をもとに②一篇のショートショートを編んでみました。

NPOとは？—私たちの願い—

文・杉田 博

アメリカ同時多発テロ事件(2001年9月11日)、そして、わが国の阪神淡路大震災(1995年1月17日)のときには、多くの人びとがボランティアとして集結し活躍している姿がテレビや新聞で毎日のように伝えられました。彼らを事件現場や被災地に向かわせた動機は何だったのでしょうか。

“FLIGHT TO MYSELF”

大森信治郎

搭乗予定のJALの便名がアナウンスされた。出発だ。アメリカ行きへの微かな？が頭を上げたが、それはすぐに飛び立つ747の轟音にかき消された。

去年の秋、9.11の事件の一週間ほど後、深夜のCNNを見ていた僕は「あっ…、ジョン！」と驚きの声を上げた。TVの画面に映し出されたのは、貿易センタービルの廃墟で救助犬とともに活躍するボランティアのレスキュー隊員の姿だった。映像はほんの数秒だったと思う。しかしそれは間違いなく僕が神戸で出会ったジョンだった。僕の心はその時、忘れていた全く違う次元にトランスした。

昨秋のその夜からさらに6年と6ヶ月前。大学4年でフィッツジェラルドをテーマにした卒論もほぼ書き終えていた僕は、大震災直後の神戸でボランティアとして活動していた。東京の大学から震災ボランティアに行った理由はある種の使命感と好奇心からだ。正直なところ後者の比重が高かった。しかし震災後の現場で遭遇した実に様々な経験は、はじめに携えていた好奇心を瞬く間に吹き飛ばした。圧倒的な無力感の中でほんの僅かな充実の瞬間が僕らを支えた。

神戸3日目の夕刻。食料配給の担当地区を回り終え、仲間と別れて廃墟と化した街を一人歩いていた僕は、瓦礫に佇む一人の婦人を見つけた。おそらく肉親を亡くしたであろう、顔面に傷を負ったその女性は、ただじっとコンクリートの山を見つめていた。僕は背中リュックからパンと清涼飲料水を出して婦人に渡そうとしたが、彼女は力なく首を振った。その目の哀しみの色は今も忘れない。僕は為す術も無く手にしたパンと清涼飲料水を彼女の足下においてその場を立ち去った。しばらく歩いて振り返ると、黄昏の中に彼女はまだ立ち尽くしていた。それまで何度もそういう場面に遭遇したはずだったが、なぜかその時

うか社会奉仕という精神でしょうか。それとも別の何かが彼らの心のなかに芽生えていたのでしょうか。

ボランティアや市民活動に関する論議が盛んになった1980年代に、アメリカで一冊の書物が出版されました。リップナック&スタンプス著『ネットワーク』(プレジデント社、1984年)です。その本には「もう一つのアメリカの発見」というサブタイトルがつけられています。「もう一つのアメリカ」とは場所のことではなく、現在とは異なる心の状態のことを指しています。つまり、市民のネットワークによって拓かれる社会は、政府や企業が形成する社会ではなく、市民参加型の新しい社会であるという意味を含んでいるのです。

21世紀は心の時代になると言われています。心の時代とは人間の欲求の多様性が尊重される時空間です。政治、経済、教育、福祉、環境…。閉塞感が漂う現代の日本ですが、「もう一つのアメリカ」と同じような社会の未来図が描かれ、全国各地に多種多様のネットワークであるNPOが誕生しつつあります。もちろん私たちの石巻地域も例外ではありません。そうした社会の動向からも、人びとの心を満たす新しい社会への牽引役がNPOに期待されていると言えるのではないのでしょうか。

言い様のない感情の大波が僕を襲った。涙が止まらなかった。次々に大粒の涙が溢れた。

救助犬を連れたジョンに会ったのはそのときだった。涙を拭いながら歩く僕にジョンはアメリカ人らしい陽気さで話しかけてきた。偶然宿泊所がすぐ近くだった僕らは、道々神戸の惨状について話をし、結局その日ジョンの宿泊所でバーボンを少しごちそうになった。僕はジョンに、何のためにこういうボランティアをしているのかと尋ねた。「For myself」と極めて簡潔に答えたジョンの言葉が僕の心に刻まれた。

数ヵ月後大学を卒業した僕は、あるファッション関係の企業に就職した。僕の仕事はジュエリー部門の営業で、ノルマに追われたセールスに明け暮れた。一ケ千円のリングから、千数百万のダイヤのネックレスに至るまで、僕はヒカリモノを売り続けた。もちろん深まる不況の中でそう容易に売れた訳ではなかった。自分が『幻想』を売っているのだと気付いた頃から営業成績が伸びはじめた。入社数年で僕は異例の高いポストが与えられた。しかしその反面僕の心にはポツカリと大きな空洞が出来ていた。その空洞を埋めるものは見つからなかった。営業会議で疲れてアパートに帰った秋の夜、TVのニュースでジョンと再会したのだった。

翌日の土曜日、学生時代の資料が収まったダンボールからジョンのアドレスを探し出して手紙を書いた。ジョンからEメールで返事が届き、それから頻りにメールのやり取りをした。僕は何度か心の空洞について書いた。

ジョンから意外な提案があったのは、今年の夏のことだった。デラウェアにある自分のNPOオフィスのスタッフとして一緒に仕事をしないかという提案だった。僕は迷わずその提案を受け入れた。

搭乗案内が再度流れた。僕は神戸で使っていた小さなリュックを背負い直して搭乗口にゆっくりと歩きだした。

いしのまきNPOセンター

人々が北上川の流れて新しい時代の始まりを予感し、協力し合いながら前進しようとする姿を小さな芽に見立てています。

むうぶ

発行
特定非営利活動法人
いしのまきNPOセンター

連絡先 〒986-0832
宮城県石巻市泉町3丁目1-63
TEL/FAX 0225-23-3641
Eメール npo@i-port.ne.jp
ホームページアドレス
www.i-port.ne.jp/npo/

2002年
秋
創刊号

御挨拶

「市民の夢や思い」を実現するのは「アイデア」と「協働」

特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター 代表理事 木 伏 良 明



企業と違ってNPOは、はじめから目的は「非営利」であって、組織としては「非営利的組織」とか「市民活動団体」とあるとされています。このようなNPOの積極的な目的は、「社会的使命」「公益」「社会的必要」とであると理解されています。

私たち市民活動団体(NPO)のメンバーはさまざまな職業をもっていますし、さまざまな理想、さまざまな個性を持っていますから、NPOにもさまざまな団体があります。

例えば、環境保護団体であるとか、街づくり団体、あるいは高齢者福祉団体などなど。しかし、私たちの仲間共通点は、自分の「思い」を少しでも活動で現わし、他人と協力しながら、小さな活動を地道に継続していることではないでしょうか。

「北海道グリーンファンド」という北海道の環境NPO団体では、「コーヒー一杯の寄付」で「市民風力発電所」の建設を目指しています。そのために一人月額400円(電気料金の月額平均の5%)の節約=寄付を決めました。このことを1年間継続すれば年額4,800円の寄付が出来ます。この活動の趣旨に、1,000人以上の人々が賛同し、協力してくれるならば、年額480万円の資金が出来ます。それを3年間継続すれば1,440万円になります。現実これだけの資金が出来る、みんなの「思い」は本物であるとして高く評価され、寄付金は沢山集まることになるでしょう。

「北海道グリーンファンド」はこの資金を基にして市民風力発電所を建設しました。

発電機は高さ60メートルもあるデンマーク製の巨大な風車です。

この発電所の発電量は1,000KW、800世帯以上の家庭に自然力発電による電力を供給する予定とされています(朝日2001.3.25)。

このようにNPOの活動は、必ず、なんらかの「思い」とか「使命」が出发点となって「協働」しています。NPOは非営利団体ですから、いつも活動の資金問題に悩まされています。ですから、私ども「いしのまきNPOセンター」は身近な社会問題を直視し、「石巻市NPO支援オフィス」や仲間たちと協力しながら、斬新な「アイデア」を持って解決策を見出し、「市民の夢や思い」が実現できるように努力します。

CONTENTS

- P2 楽しく学ぼうNPO 第1回研修会
講師:松尾敏行 文・佐々木万亀夫
- P3-P4 特集 MNSCN石巻講座レポート
100本のクリスマス・ツリー 文・山本公恵
NPOと行政 文・久保武士
コミュニティビジネスの仕掛けづくり 文・高橋 壽
研修部会9月報告 文・佐々木万亀夫
- P5 若葉マークが行く
シリーズ 人が支えるNPO ①
ゆみちゃんのおじゃましま〜す!
「NPOスマート・シニアいしのまき」
- P6 NPO論楽
NPOとは?—私たちの願い— 杉田 博
“FLIGHT TO MYSELF” 大森信治郎

むうぶ

育む incubate 集う communicate 結ぶ network

move 【mu:v】 動かす、(精神的に)動かす、感動させる
新しい時代の胎動をNPOがつくるといふ思いを込めて…。

楽しく学ぼうNPO 第1回研修会

講演会

『NPO支援オフィスの役割』

講師

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンタースタッフ

仙台市市民活動サポートセンター副センター長

松尾 敏行

講師 松尾敏行(まつおとしゆき)プロフィール
1970年神奈川県生まれ。環境問題に関心があり大学で化学を学ぶ。環境調査会社、技術者教育会社、学校へ行けない子ども達のサポート校教員、「まちづくり情報センター-かながわ(アリスセンター)」を経て1999年よりせんだい・みやぎNPOセンターのスタッフとなり、公設民営型の施設である「仙台市市民活動サポートセンター」に勤務。プライベートでは「みやぎ環境教育ネットワーク」や「詩のボクシング宮城大会実行委員会」などの市民活動を行い、心豊かでエコロジカルな生活を目指している。

●研修会レポート

研修部会報告 研修部会長 佐々木万亀夫

8月24日に行われました第1回んぼん舗まつりは、朝方の悪天候にもかかわらず、来館者が250名にもなりました。また、本年度の第1回の研修会になります講演会にも多数ご出席いただきましてありがとうございます。

今回の講演会は、『NPO支援オフィスの役割』のテーマで、仙台市市民活動サポートセンター副センター長の松尾敏行氏からお話をいただきました。初心者にも分かりやすい平易な講演内容でした。その中でも私が印象に残ったのは、「街中で気軽に市民活動できる場」というところでした。センターとは、市民活動する上で必要な物、つまり、会議室、共同事務所、ロッカー、レターケース、印刷機、パソコンなどが揃っていること。石巻市NPO支援オフィスでも、この中のほとんどはあるのですが、共同事務所やロッカーはありませんし、レターケースはメールボックスとしては機能していません。センターのセンターたるところは、私見ですが共同事務所にあるように思います。異なる団体が、情報の受発信をし互いに連携するためには、同じ時間に同じ場所で活動する機会が必要となります。ITを活用した情報の受発信はお互いを知るきっかけにはなるでしょうが、相互理解をするためには顔が分からないといけません。そのためにも、今回の講演会の内容を咀嚼して、私達が運営している石巻市NPO支援オフィスを、石巻圏域の人たちにとってより利用しやすいところにするよう努力していきたいと思います。

この講演会は、8月24日に「石巻市NPO支援オフィス」にて開催された「んぼん舗まつり」のプログラムの中で、特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンターの主催行事として行いました。

第1回 んぼん舗まつり 2002年8月24日/石巻市NPO支援オフィスにて

館内催し物

- 講演会 講師 松尾敏行 ●特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター NPO相談コーナー
- NPOスマート・シニアいしのまき パソコン体験
- 特定非営利活動法人広域石巻住宅改善センター 相談コーナー 活動PR展示
- d. ARTS 活動PR ●石巻を考える女性の会 活動PR ●石巻千石船の会 活動PR展示
- 地域・国際貢献サークル フォーラム 民族衣装体験コーナー

屋外催し物

- 手作りサークル・アチーブ(手作り作品販売) ●石巻市NPO支援オフィス フリーマーケット
- 饅頭喜楽 焼きそばなど ●いしのまきNPOセンター んぼん舗スーブ
- 石巻市NPO支援オフィス わたあめ ジュース ●NPOスマート・シニアいしのまき 活動PR
- 石ノ森漫画館 グッズ 軽食販売

シリーズ 人が支えるNPO ①

ゆみちゃんの おじゃましま〜す!

シリーズ 人が支えるNPO 記念すべき第1回は「NPOスマート・シニアいしのまき」さんへおじゃましま〜す!!

火曜日の午後、三角茶屋の裏手にある「うめぼたけ」へと向かいました。

うめぼたけ…そこは隠れ家的な純和風の集会所。

道を挟んで建物が2軒ありました。

まずはパソコン教室からおじゃましま〜す!



決してお世辞にも広いとはいえないところがこの良さ。

そこへ器用に並んだパソコンは8台。

自由参加で、去年はのべ300人の生徒さんが参加されたとの事。

でも、先生にほぼマンツーマンでパソコンが教えてもらえるなんてこれはちよつと贅沢というものでしょう。先生は5人、日野輝郎先生・初見満先生・永井昭治先生・伊藤寿朗先生・久保武士先生です。習う生徒もシニアなら教える先生もこれまたシニア。ところでシニアって?

気になるシニアの定義について伺ったところ、

「50歳から」というお返事。

ところが「いえ、何歳からでもいいんですよ」

「えっ!じゃあわたしもいいんですか??」

「ちろん! ま〜!なんて太っ腹!

ただパソコンを教える習うというだけでなく、ホームページやメールリストなど、お互いのコミュニケーションにも一役かつてパソコン教室。元気なシニアのみなさんに、ここ「うめぼたけ」のスマート・シニアいしのまきをきっかけにネットワークがうまれているのです。

ノートパソコンの持ち込みもOK。

あなたのお宅でパソコン眠っていませんか??

さて、いったん外へ出て向かいの建物へ。

続いてはスマート麻雀塾へおじゃましま〜す!

なんと全自動卓まで完備!の麻雀塾は会員制。今のところ会員は約30名。パソコン教室の生徒さんもずつかりはまっているようです。

NPOスマート・シニア石巻

パソコン教室

毎週火曜日、金曜日 午後2~4時

受講費 1回2時間 1,000円

(但しインターネット・電子メールの基礎は1,200円)

スマート麻雀塾

毎月第2第4火曜日 午前10時~午後3時

年会費 1,000円 参加費 1日500円

場 所 田道町1-2-51 うめぼたけ

TEL23-9066(火金のみ)

問い合わせ・申し込み

TEL96-1875 久保宅まで

Eメール kubo-ko@axel.ocn.ne.jp

頭脳と指、手先を動かすのは若さの秘訣。「賭けない・飲まない・吸わない」がモットーの健康麻雀。

プロの指導者鈴木正一先生をはじめ、腕に自信のある?世話人の方たちも優しくコーチしてくれます。これが麻雀2回目という佐藤さんにお話をうかがったところ「面白い、若返ったようです。知らない人ともコミュニケーションがあるし、間違ったりしても、笑える」と、とっても楽しそう!

また、きっかけは

旦那さんに「ボケたら知らんぞ!」と言

われて始めたという

林さんは「面白くつ

てはまりました!大会

を目指します!」と

パワーあふれるお言

葉を頂戴して、こつちが圧倒されちゃいます。

そんな皆さんが口をそろえておっしゃるのは「みんなが集まってやるのがいい」「おしゃべりできて笑いがあ」と、ほんとに皆さん楽しそう!

50年以上の人生キャリアの力をヒシヒシと感じました。これからの高齢化社会、7割は元気なシニアと伺いました。勤めていた人には定年、事業をしていた人も世代交代…自分の時間を家の中でゴロゴロしてるのはもったいない。先はまだまだある。第2の人生を相集つて楽しさを伴わせながら社会に何か貢献していこうじゃないか。人の広がり生まれ、いろんな趣味をもった人が互いに教えあい、仲間作りができる。スマート…それは芽えて活動を楽しむイメージ。

今後は英語の歌を通しての英会話教室の予定も。

人が集い人を呼び笑いと元気があふれるスマート・シニアいしのまき。

次はどこへおじゃましようかな??

